



浦島伝説

今ありて - 2011浦島伝説始まる -

春の選抜高校野球大会が、東海大相模高校の優勝で幕を閉じました。東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、高校生のハツラツとしたプレーは、多くの人々に元気と勇気と感動を与えてくれました。また開会式での選手宣誓も印象に残っています。「私たちは16年前、阪神淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地では、すべての方々が一丸となり、仲間と共にがんばっておられます。私たちにできること。それは、この大会を精一杯、元気を出して戦うことです。がんばろう、日本。生かされている命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います」(創志学園主将・野山慎介)

今日の入学式で132名の新生を迎えました。右に掲載した選抜高校野球大会歌『今ありて』は、まさに今の私たちの気持ちをよく表していると思います。

今、私たちにできることは何でしょう。彼らのように野球で表現することはできませんが、学習や部活動、学校行事などに、新しい仲間たちと共に正々堂々とプレーすることはできます。ここ詫間中学校が、みなさんにとっての“甲子園”になります。

新しい季節のはじめに
新しい人が集いて
頬そめる胸のたかぶり
声高な夢の語らい
ああ 甲子園 草の芽萌え立ち
駆け巡る風は 青春の息吹か
今ありて 未来も扉を開く
今ありて 時代も連なり始める
踏みしめる土の饒舌
幾万の人の思い出
情熱は過ぎてロマンに
花ふぶく春に負けじと
ああ 甲子園 緑の山脈
たなびける雲は追いかける希望か
今ありて 未来も扉を開く
今ありて 時代も連なり始める

2011年の選抜高校野球大会は終わりましたが、新たな浦島伝説は、今始まったばかりです。

AKB353

始業式の後、今年から生徒指導主事を務める横田義崇先生から、AKBについての話がありました。しかし、アイドルグループ「AKB48」のことではなく、生徒たちに「してはいけないことは絶対にしない」「しなければならないことはきちんとする」ことを守ってもらうために呼びかけた内容です。

あいさつは、以前はとてもよくできていましたが、最近あまり元気がなく、保護者による評価でも他の項目に比べて低い評価になっています。交通立哨などを行っている地域や保護者の方からも、「最近の中学生は大きな声であいさつをしなくなった」という声をよく聞きます。加えて、「ありがとう」という感謝の気持ちを素直に表現できる人であってほしいと思います。三豊市教育委員会の目指す子ども像にも、「あいさつ」と「ありがとう」の言える子どもの育成が掲げられています。

交通ルールやマナーについては、昨年度末の離任式で何人もの先生から「詫間中学校のヘルメット着用率はNo1である」というおほめの言葉をいただきました。しかし、その一方で、道いっぱいに広がって走るなど、一列通行についての意識は非常に低調です。昨年6月に、大下歯科から中学校までの道をマナーアップゾーンとして一列通行を呼びかけたところ、見違えるような光景が見られ、学校通信のタイトルでも「詫中名物一列通行」と紹介したことがありますが、後半息切れをした感がありました。自分の命を守るだけでなく、相手の命を守るためにも、もう一度気を引き締めて、交通ルールやマナーを守りましょう。

小さな服装の乱れは、大きな心の乱れにつながっていきます。保護者アンケートから、授業参観時に男子の第1ボタンや女子の袖ボタンをはずしている生徒が多くいたという感想も寄せられました。また、カバンを持って登校するのは当たり前のことです。カバンには、夢がいっぱい詰まっています。教科書やノートを使って勉強することが、夢の実現につながるからです。

全校生徒353名がこれを守れば、AKB353としてあの人気アイドルグループよりも、まわりに影響を与えるすばらしい集団に成長すると信じています。

A：あいさつをする、「ありがとう」を言う
K：交通ルールやマナーを守る
B：制服のボタンをきちんとする
b a g (学生カバン)を持って登校する